

【めむろ未来ミーティング日程 1】

令和7年1月7日（火）

10:20～11:30

■参加者 30人

■芽室町 町長、副町長、教育長
環境土木課参事、魅力創造課参事
農林課長、環境土木課長、政策推進課長

■記録 広報広聴係長

■対応・検討が必要な事項

- ①上美生保育所の遊具が使用できるよう一般開放してほしい(子育て支援課)
- ②上美生保育所を学童クラブに開放できないか(子育て支援課)

- 1 開会
- 2 町長挨拶
- 3 町からの説明事項
 - 資料1 ゼロカーボンの取組
 - 資料2 新嵐山スカイパークのグランドデザインについて
- 4 意見交換

【意見】

先ほどの交礼会においても町長から、まちなか再生や新嵐山、公立芽室病院の経営のことなど、色々な課題があると伺った。そのうえで、農村の集落におけるコミュニティについてはどのように考えているか。町はどう考え、どのような方向に持っていきたいと思っているのかを伺いたい。

今の上美生では学校の問題など、たくさん課題があり、大きい学校がいいとか小さい学校がいいとかそういうことではなく、町としてはどっちに向かいたいのかなと思う。移住定住を考えた時に、街中から街中に移住することは少ないと思う。農村地域や山で暮らすということを考えた時に、集落の機能は考えているか。

【町長】

難しい質問であるが、現在、農村地域の地域福祉館は建て替えを進めている。この意味としては、その地域をしっかりと残していきたいという考えがある。昔は学校があって、保育所があって、福祉館やセンターがあって、そこが地域の拠点として機能してきた。人口も減って学校や保育所が無くなった地域もあるが、拠点となる場所はあって、そこが地域コミュニティの場として機能しなければならないと考えており、今後はセンターを拠点として活かしていけないかと思っている。上美生は学校があるが、学校の在り方についても考え方は同じである。保育所も今は休止しているが、前にも言っているとおり、一人でも希望があればまた開所する考えである。しかし、ニーズがないということであれば、学校も同様だが、将来的にあり方を考えなければならない。このセンターも改修等に向けてこれから考えていかなければならない。

そういうことをベースにしながら、農村地域のコミュニティというものをしっかり続けていくことが必要だと思っていることは申し上げておきたい。

フランス等では人口200人や300人の村もあって、しっかり成り立っている。さらに移住定住で色々な方が来て、受け入れて新しいコミュニティに結びついていくということが地域のコミュニティとして理想だと考えているので、そこを目指して、そのような拠点としての整備をさせていただいている。

【意見】

モンベルショップとビジターセンターに関してだが、ビジターセンターはまちなかに設置し、新嵐山と紐づけるというイメージか。

【町長】

株式会社モンベルの関連会社に新嵐山スカイパークのグランドデザインを策定していただいた。国立公園園化した日高山脈の活用を考えた時に、実は日高山脈への入り口は清水町、中札内村、広尾町など、大きく3つしかない。残念ながら新嵐山から奥に行くと日高山脈に入ることはできない。景観を見る場所とし

て新嵐山の頂上を含めて整備していくことは大事ではある。ただ、登山者がスタートとして入るビジターセンターは国道沿いであって、そこに受付やガイドを配置し、清水町からガイドと一緒に日高山脈に入っていくという考えがモンベルにあり、そこに登山用品も購入できるショップとセットで設置してはどうかという発想。新嵐山とは別々の場所になるが、日高山脈のことをまったく関連付けないということではなく、景観を活かすなど連動はさせていきたい。

【意見】

上美生保育所が休所中だが、保育所にあるエアコン等が使われていなくてもったいないと思っている。暖房やエアコン等、その他保育所にあるものを他の必要な施設で使うことはできないか。

①遊具については以前聞いたら管理の問題で使えないという話だったが、一度公園係の職員などに点検してもらって、支障なければ自己責任の形でも一般開放等を考えていただきたい。

【町長】

保育所の備品活用は、休所して1, 2年が経過しているところだが、今後の方向性が定まらないうとエアコン移設等は難しいと考えている。現状は1人でも希望者がいれば開所する考えであり、移設してしまった場合、希望者がいた時に対応できなくなる恐れがある。そのため、どこかの時点で方向性を決めなくてはならないと思っている。その段階で今後の利用がないものと判断した場合においては、エアコン等の備品を他の施設で活用するという発想は出てくると思う。方向性が決まった後には考えていきたい。

遊具に関しては、安全性を確保したうえで地域の子どものために一般開放することは可能性としてはあり得る。ただ、その場合は仰るとおり自己責任ということになるかもしれない。町として全て維持管理して安全を保障するという事は厳しいかもしれないが、活用の方法については検討させてもらいたい。今日、担当課長は来ていないが、しっかり伝える。

【意見】

関連して、現在、上美生学童クラブがセンター内に入っている。利用人数はそこまで多くはないが、場所自体も広くない。夏場や冬場に気になることがあって、外で遊んでいる子どもが目立ち、車の出入りする時に危険性を感じることもある。②今の保育所の場所をそのまま学童に開放してあげたら施設活用にも繋がるしエアコン等も使えるようになるので、そのままの状態を活用させていただければありがたいが、いかがか。

【副町長】

地域の皆さんの要望、総意という形であれば、保育所を活用するということには問題ないと思う。ただ、保育所として再開する際にはまた使えなくなってしまうので、その辺は地域の皆さんと調整させていただいたうえで判断させていただきたい。

【意見】

新嵐山の件。今はスキー場再開に向けて動いていると思うが、グランドデザインの資料を見ると、公園機能のオープンが令和10年度になっている。公園機能には色々な施設があるが、それらを例えば1施設ずつオープンすることはできないか。

私は犬を飼っていて、今もほぼ毎日新嵐山に散歩に来ている。今回、スキー場のオープンが終わった後も開放されるのか、または一度閉鎖して工事が入るのか気になっている。新嵐山のドッグランが無くなったが、芽室町の公園は犬にやさしくなく、ペットが芝生に入れないので、帯広市等のドッグランに行っている。そこで、新嵐山のドッグランは良かったという声がとても多く聞く。町外から来ていた方も、ドッグランの後に、芽室町でパンを買って帰ったり、飲食店に寄ったり、町の経済を潤していた。それが無くなってしまって皆さん本当に残念がっている。

なので、例えばドッグランなどの場所だけでも開放していただき、利用する飼い主で管理するような形でも使わせていただきたいというのが私たち飼い主からの希望。その辺りも踏まえて今後の新嵐山の予定を教えてください。

【町長】

ドッグランなどの、建物等が伴わない簡易的な工事で可能な設備については、前倒しでオープンできる可能性はあると現時点では考えている。ただ、駐車場を利用する時に、外構工事をしている所は入れない等の問題も生じると思われるので、そのようなことに配慮したうえで、一部だけ開放できるということはある。令和7年度に計画を立て、設計も前倒しで実施できたらその時点でいつオープンできるか見えてくる。私たちとしても活用できるところはできるだけ早めに開放したいと考えているので、しっかり検討させてもらいたい。

【意見】

上美生農村環境改善センターに館長を置いてくれたりなど、上美生は町の方々には大変お世話になっている。そのようなことが安心して上美生で暮らしていることの一つになっていると思う。

上美生は酪農家が多い地域である。その中で、堆肥等のバイオマスを利用して電気を作るなど、町と農協で連携して手掛けてほしいと思う。

【町長】

センターの件は、今地域の皆さんとも話を進めてきているところである。耐震性は大丈夫だが、設備が老朽化しているため、何らかの対策は講じなければならない。新築、改築までいけるかわからないが、少なくとも改修はしなくてはいけない。先ほど言ったように、地域コミュニティの場という点で非常に重要だと考えているが、学校の存続の問題や保育所の問題もある。センターの機能としてどのようにこの場所を使っていくかを地域課題も含めて一緒に考えていかなければならない。地域のニーズや要望も含めながら在り方を考えていかなければならないという部分が課題だと考えている。

再生可能エネルギーの話だが、上美生は酪農家の方が多いため、糞尿を活用した集中型のバイオガス発電を考えた時期があった。農家の皆さんにアンケートを取って、農協とも色々話をした結果、集中型についてはやらないという形になった。ただ、個別には色々な方策を検討しているので、詳細を農林課長

から説明する。

【農林課長】

JA やほかの関係機関とも協議を続けているところであるが、個別の方策についてなかなか結論が出せないでいる状況。大規模な集中型のバイオガスプラントはインシヤルコストやランニングコストを考えると費用対効果が得られないということもあり、今の段階では考えていない。

ただ、酪農家によっては余剰糞尿でお困りになっている方もいることは把握しているので、どのような方法が考えられるのか、農協とも引き続き協議していく。町として再生可能エネルギーを活用していく方針であり、そういった部分も踏まえて検討を続けていく。

【町長】

再生可能エネルギーの関係で言えば、美生ダムの小水力発電をずっと準備をしてきて、今は国営事業でやっていただいている。これが令和8年度から売電収入が表れてくることになる。これは土地改良施設の維持管理費用に使えるため、今だと多目的給水システム等に何かあった時に修繕するという対応になっているが、予防整備や事前の更新など、そのような経費にも充てられることになる。それらの維持管理費用に売電収入を充てられるので、町としても非常にありがたいし、皆さんの整備も今までより早く対応できるということになる。

また、皆さんにお支払いいただいている利用料に関しても、本来であればもっと高くいただかないと成り立たない状況ではあるが、本来上乘せしたい部分にも充てられるので、利用料は今後も現状維持できる。

売電収入の額は数千万円単位で入ってくる見込みなので、皆さんのプラスになるように活用していきたい。

【意見】

新嵐山スカイパークのグランドデザインについて、資料 8 ページ目の図面⑤センターハウスと⑥拠点施設

は新しく建てて、管理は指定管理者がするという認識でよろしいか。

【町長】

仰るとおり。町の直営での運営は今のところ考えていないため、民間事業者に入っただいて運営管理していただく形である。設計、建築、運営をしていただく DBO 方式での委託を予定している。委託事業者は今の時点ではまったくの未定であり、これからの話。

【意見】

施設は町で整備するのか。

【町長】

そのとおり。施設は民間資本ではなく、町の資本で整備するということ。

【意見】

⑨と⑩の民間活用の部分については、完全に民間事業者が建物も整備し、指定管理者も入らないということか。

【町長】

図面で言う緑のゾーンと赤のゾーンをしっかりと分けた意味としては、これから緑の部分を都市公園に編入するということは、町として今後活用するイメージがあるので、しっかりと管理していくという意味。⑨と⑩は、町として活用する予定がないため、民間の方がこの資源を使って何かをやりたいということを公募していこうという考え。おそらく令和8年度くらいに公募していくことになるが、宿泊施設や温浴施設、あるいはそれ以外でも民間事業者がやりたいということであれば、土地を貸したり売ったりする方向性のある場所が赤のゾーン。

ただ、民間活用ゾーンだから何をやってもいいということにはならない。所有者は町なので、貸すにしても売るにしても、町の責任として目的をしっかりと確認したうえで、問題がなければお任せするようなイメージである。

また、⑤のセンターハウスには、過去に地域で焼肉等をやったこともあったと思うが、当時の焼肉ハウスのような部分は、このロッジの夏バージョンでやっていきたいという発想。夏は焼肉ハウス、冬はスキースクールやレンタルの場所として活用できれば。

⑥は屋内遊戯施設で、子どもたちやファミリーをターゲットにしているが、飲食の部分で、お客さんが来たら連れていけるような、地元の食堂のような感じで使ってもらえるような場所にしたいとイメージしている。

【意見】

⑨と⑩の場所には宿泊施設や温泉、サウナ施設が整備されることが理想的だと思っているが、これまでのことを考えるとなかなか手を挙げる事業者はいないのではないかという見解。今のところ手を挙げている事業者は出ているのか。

【町長】

新嵐山株式会社が倒産した時、決算でも明らかになっているが、費用対効果が一番悪かったのが宿泊部門。今後も町として宿泊や温浴を続けていくかと考えた時に、町民からの意見としても宿泊施設はいらないという意見も多く、色々検討したが、町としては宿泊機能からは手を引くことにした。ただ、民間事業者が自分たちで魅力ある施設を作って人を呼べるという風を感じてくれるのであれば、宿泊施設や温浴施設というものも可能性としてはあるかもしれない。今、手を挙げてくれる民間事業者に目途があるかということ正直何も無い。

【意見】

学校のことにに関して、将来的には町全体として学校一つで間に合うという話が出てくることは、人口も減っており自然なことだと思う。上美生には現在学校があり、今後も残してほしいということを上美生地域だけで言っても正直難しい話だと思うが、学校に付随して山村留学という制度もあり、学校があるから移住をするということもある。教育や学校の面だけで言えば、将来的には地域の人数で学校を維持していくことは難

しいという考えはある。しかし、学校教育以外の視点、移住定住という点で言えば一つの売りとして、ここに学校があるという環境はいいことだと思う。

また、大規模の学校では馴染まず、少人数の学校を選ばせてあげたいという考えもある。具体的な需要は調査もしていないのでわからないが、そういう気持ちの親もいるということは聞いている。

町全体として、これから10年先、20年先を考えると、学校、子どもたちの教育を考えた時に、人数が少なくなってから一つの学校にまとめて、機能を色々つけるということはできると思う。また、本人が選べる方法というものもあると思う。そのうえで、大きくまとめて大きな枠内でやっていく方がいいのか、それとも可能性として今山村留学の環境が残っているうちに選択肢の一つとして小規模校を残して、将来の芽室町のためにうまく活かしていくという考えがあるのかどうか聞きたい。

【町長】

まず一つ思うことは、親の教育に対する考え方も変わってきていると思っていて、全ての方ではないが、一定程度の規模で教育を受けさせたいという方も結構増えてきていると感じている。かといって、複式学級にするとか、義務教育学校にしたら良いとかという話でもない。地域の特徴である、移住や山村留学を活かして、地域で学校を残していくという特色は存続のポイントになると思う。

私たちが移住政策をどうしていくべきかと悩んでいる。NPOの方や上美生でも山村協の皆さんが頑張っていることは認識して、候補者は増えていると思う。その時に、学校があることは移住しやすいポイントになっていて、その環境を町として、あるいは山村協として、あるいは地域として、どこまで、どのように受け入れていくかということも必要だと思っている。芽室町には移住体験住宅はないが、例えばそういうものも、地域と共によりしっかりとやるということになれば整備も考える必要もあるかもしれない。町と地域でしっかり話して、それが最終的に学校の存続にも結び付けられるようなポイントになってくると考えている。

【教育長】

子どもたちにとってより良い教育環境を担保するという視点を外したくない。その中で学区内に一人でも通わせたいという親もいるかもしれないし、一方ではそうなれば違う学校へという家庭、子もいるかもしれない。その辺りが難しいと思う。

学校は簡単に統合したり再開したりできないので、持続可能な形を探っていきたい。

それも踏まえて配置計画を作っているが、配置計画も一方的に町が決めているわけではなく、学校や地域の方、保護者など皆さんのコンセンサスを得た中で作っている。先を見据えながら令和9年度からの配置計画を作っていきたい。

いずれにしても、子どもが少なくなったからまなかに1校という考えではなく、地域の中の学校も大事にしながら、子どもたちにとってよい環境というものを探っていきたい。

11時30分終了

